

8. 飼料作物

(1) 稲発酵粗飼料用稲

- I. 耕種的防除
「水稻」の欄を参照し、耕種的防除に努める。
- II. 薬剤防除
薬剤防除については、「稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル」の「農薬使用」欄の最終改正版に掲載された農薬の種類・使用方法によるものとする。
これに加えて本田使用の農薬の魚毒性はⅠ類とする。さらに、除草剤は使用上の注意事項なども考慮して選定するものとする。
なお、収穫適期は、糊熟期から黄熟期のため、ラベルに「収穫〇日前」記載されている農薬を用いる場合、防除可能な時期が主食用米より早まることに留意すること。
また、「ミズホチカラ」「モミロマン」などの新規需要米向け水稻品種は、ベンゾビスクロン、メソトリオン、テフリルトリオンに対する感受性が高いので、それらを含む除草剤は使用しないこと。
- III. その他
稲こうじ病に罹った稲を梱包した稲WCSは、発生程度にもよるが嗜好性が低下する。

(2) 飼料用米

- I. 耕種的防除
「水稻」の欄を参照し、耕種的防除に努める。
- II. 薬剤防除
防除薬剤一覧表の「水稻」欄に掲載された農薬の種類・使用方法による。
ただし、出穂以降(ほ場において出穂した個体が初めて確認される時点以降)に農薬の散布を行う場合、家畜には粃摺りした玄米を給与すること。粃米のまま、もしくは粃殻を含めて家畜に給与する場合は、「飼料として使用する粃米への農薬の使用について」(平成21年4月20日付け21消安第658号・21生畜第223号)の記の3に記載の農薬を除き、出穂以降の農薬の散布を避けること。
稲発酵粗飼料用稲と同じく「ミズホチカラ」「モミロマン」などの新規需要米向け水稻品種に感受性が高い成分を含有する除草剤は使用しないこと。

(3) いね科牧草

冠さび病

- I. 耕種的防除
1. 耐病性品種を栽培する。
 2. 厚まきを避ける。
 3. 早期発見に努め、発生を認めた場合は早期に刈り取る。

アワヨトウ

- I. 耕種的防除
早期発見に努め、発生を認めた場合は早期に刈り取る。
- II. 薬剤防除
薬剤を散布する。

アブラムシ類

- I. 耕種的防除
厚まきを避ける。
- II. 薬剤防除
薬剤を散布する。

(4) まめ科牧草

アブラムシ類

- I. 耕種的防除
厚まきを避ける。
- II. 薬剤防除
薬剤を散布する。

(5) 飼料用えんばく

赤かび病

- I. 耕種的防除
刈り遅れしないよう適期収穫に努める。
- II. その他
被害粒を給与すると中毒を起こすことがある。

冠さび病

- I. 耕種的防除
1. 耐病性品種を栽培する。
 2. 厚まきを避ける。
 3. 早期発見に努め、発生を認めた場合は早期に刈り取る。

アワヨトウ、イネヨトウ

- I. 耕種的防除
早期発見に努め、発生を認めた場合は早期に刈り取る。

(6) 飼料用とうもろこし

ごま葉枯病

- I. 耕種的防除
 1. 耐病性品種を栽培する。
 2. 常発地では遅播きを避ける。
 3. 深耕を行い、堆肥やりん酸肥料を施す。
 4. 連作を避ける。
 5. 被害葉は畑に残さない。
- II. その他
 1. 高温時に発生が多い。
 2. 害葉の中の菌糸で越冬する。

黒穂病

- I. 耕種的防除
 1. 耐病性品種を栽培する。
 2. 被害株は早期に抜き取る。
 3. 窒素肥料の過用を避ける。
 4. 発病地は3年間他作物を栽培する。
- II. その他
 1. 被害株を給与すると中毒を起こすことがある。
 2. 胞子は数年間生存し、土中越冬して飛散し感染する。

赤かび病

- I. 耕種的防除
 - 刈り遅れしないよう適期収穫に努める。
- II. その他
 - 被害粒を給与すると中毒を起こすことがある。

根腐病

- I. 耕種的防除
 1. 耐病性品種を栽培する。
 2. 連作を避ける。
 3. 被害株は畑に残さない。

ヨトウムシ類 (アワヨトウ、イネヨトウ、 ツマジロクサヨトウ)

- I. 耕種的防除
 1. 雑草を除去する。
 2. 早期発見に努め、発生を認めた場合は早期に刈り取る。
- II. その他
 1. 雑草の繁茂しているほ場に発生しやすい。
 2. 6月中旬から幼虫の被害が多い。

鳥類 (食害防止)

- I. 耕種的防除
 - 播種後発芽前から本葉2葉期に、テグス等の糸を張る。
- II. 薬剤防除
 - 薬剤を塗沫処理する。

(7) 子実用とうもろこし

アワノメイガ以外は飼料用とうもろこしに準ずる。ただし、ヨトウムシ類の発生を認めた場合の耕種的防除の早刈り対応は行わない。

アワノメイガ

- I. 耕種的防除
 - 雑草を除去する。
- II. 薬剤防除
 - 薬剤を散布する。
- III. その他
 - 幼虫は侵入した稈の内部等で越冬するので、収穫後は速やかに耕起し、残渣を鋤き込むか、残渣をほ場外に除去する。

(8) ソルガム

すす紋病

- I. 耕種的防除
 1. 耐病性品種を栽培する。
 2. 連作をしない。
 3. 被害葉は畑に残さない。
- II. その他
 1. 低温期に発生が多い。
 2. 被害葉の中の菌糸で越冬する。

紫斑点病

- I. 耕種的防除
 1. 耐病性品種を栽培する。
 2. 刈り遅れしないよう適期収穫に努める。
 3. 被害葉や被害種子は畑に残さない。
- II. その他
 - 被害葉や種子の病斑組織内の菌糸で越冬する。

鳥類 (食害防止)

- I. 耕種的防除
 - 播種後発芽前から本葉2葉期に、テグス等の糸を張る。
- II. 薬剤防除
 - 薬剤を塗沫処理する。

ヨトウムシ類
(アワヨトウ、イネヨトウ、ツマジロクサヨトウ)

- I. 耕種的防除
 - 1. 雑草を除去する。
 - 2. 早期発見に努め、発生を認めた場合は早期に刈取る。
- II. その他
 - 雑草の繁茂しているほ場に発生しやすい。

アブラムシ類

- I. 耕種的防除
 - 1. 厚まきを避ける。
 - 2. 生育後期の発生では早期に刈り取る。
- II. その他
 - 1. 過繁茂で通風採光が悪いと発生しやすい。
 - 2. 乾燥時に発生しやすい。
 - 3. アブラムシの発生によりすす病、萎縮病が併発しやすい。